未来に残す被災地の方言

川　越　　めぐみ

担当者：〔青森・岩手〕田附敏尚・貝野瀬美那・尾形千里・佐倉友季絵
〔宮城〕椎名渉子・内間早俊・佐藤亜実・大場雄司・奥山浩佳
〔福島・茨城・千葉〕川越・劉玉漾・飯塚敦史・猪狩慶紀・
エディリマンナ ジャヌーカ

1　概要

1.1　目的と課題の進め方

本課題は方言のこれからの記録に向けて、被災地の方言がどのように研究されてきたのかを把握するために、まずは研究文献や資料の目録を作ることを目的としてきた。そして、そこから不足している部分、今後取り組むべき課題は何かを見出すことを目的として文献・資料を収集、内容に目を通し、どのような分野、地域の研究がなされているのかを確認し、研究の不足している箇所について検討を行ってきた。

1.2　文献・資料の収集方法

文献・資料を収集したのは青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県の津波による被害を受けた太平洋岸及び東京電力福島第一原子力発電所事故による避難指示区域並びに計画的避難地域、特定避難勧奨地点を含む市町村のものである。以下に文献・資料の収集方法の概要を記す。

1.2.1　探し方

①『20 世紀方言研究の軌跡―文献総目録―』（日本方言研究会編、2005 年、国書刊行会）
だいたい明治期から 2001 年までの方言書目、方言論文（資料）がそれぞれ総記と地方（各県ごと）に分けて記載されている。2001 年までの書籍、論文はこれをベースとした。

②『国語年鑑』1954～2009 年版（国立国語研究所編、大日本図書）
国語年鑑にはその年の刊行図書一覧、雑誌論文一覧があり、どちらともその中に「方言、民俗」という項目があるので、そこを見ると当該地域の書籍、文献があるかどうかがわかる。
①で探しきれない 2002～2008 年の書籍・論文はここで補った。

③ インターネット
日本語情報資料館（http://www6.ninjal.ac.jp/）や CiNii（http://ci.nii.ac.jp/）などの学術文献データベースを用いて、「方言」「仙台」「宮城」などのキーワードで検索。
上述の手順で取りこぼしがあった場合これで補完した。

1.2.2　集め方

① 東北大学大学院文学研究科国語学研究室及び東北大学附属図書館

まずは東北大学大学院文学研究科国語学研究室や東北大学附属図書館にある書籍、論文、市町村史等の資料を確認して手元に保存し、閲覧できる状態にした。

② インターネット

各大学や研究機関の機関リポジトリなどを活用し、インターネット上に公開されている論文はそこから入手した。

③ 国立国語研究所図書館

2011 年 7 月 25 日及び 2012 年 2 月 20 日、21 日に国立国語研究所図書館に赴き、上記の①②で未入手の資料を確認した。

④ 国立国会図書館

2011 年 2 月 21 日に国立国会図書館に赴き、上記①～③で入手できなかった資料を入手した。

※ 探しきれてないものと、集めきれてないもの

なお、上述の探し方では、見ることができなかったものや捜しきれなかったものも数件存在する。特に、私家版や市町村史等の公開場所が限られているものや、卒業論文等の公開されていないものなどにも、被災地方言について記述されているものがあると考えられる。これらは今後さらに調査を進めていきたいと考えている。

2　被災地における方言研究の状況と課題

以下、各県で被災地に該当する市町村を挙げながら、上記の方法で収集した文献・資料の分野別件数を示して、当該地域における方言研究の現状を把握する。また、そこから見出される今後の方言記録に向けた課題を述べていくこととする。

形式としては、文献・資料の分野別件数を県ごとの《分野別研究件数》に表として掲げる。《分野別研究件数》は方言区分や市町村などの地域区分ごとに「音声」「文法」「語彙」「方言集」「言語行動」「その他」の 6 つの分野に大まかに分け、論文延べ数を表にまとめた。詳細な分野については、本節末の研究書籍・論文・談話資料等リストを参照願いたい。

《分野別研究件数》の後に各県ごとの研究課題として、研究の現状と今後の課題の考察をのせてあるが、紙幅の都合で岩手県と宮城県は表と逆の掲載となる。なお、複数県にまたがっている大規模な資料については、2.1～2.6 に示す各県の後の 2.7 にまとめて掲載してある。

ただし、今回の分析は、上述のとおり「宮城県」や「仙台市」「南三陸町」などの各被災地の市町名を『20 世紀方言研究の軌跡―文献総目録―』（日本方言研究会編、2005 年、国書刊行会）、『日本語情報資料館』（http://www6.ninjal.ac.jp/）、CiNii 等で索引・検索した上で入手できた文献を対象としており、東北全般を対象とした研究など、まだ目を通せていない文献もあるため、今後さらに収集・分類をしていきたい。

2.1　青森県

被災地（市町村）:〔下北〕A 東通村

〔上北〕B 六ヶ所村　C 三沢市　D おいらせ町

〔三八〕E 八戸市　F 階上

《青森県分野別研究件数》

	音声	文法	語彙	方言集	言語行動	その他	未確認	計
全域	6	4	5	4	0	5	0	24(10)
被災地全域	0	0	3	0	0	1	0	4(4)
下北地方	1	0	0	0	0	1	3	5(5)
上北地方	0	0	0	0	0	0	1	1(1)
南部地方	1	3	1	0	0	1	7	13(11)
A東通村	2	3	2	1	0	2	0	10(9)
AB東通村、六ヶ所村	4	1	4	0	0	3	0	12(6)
B六ヶ所村	0	0	1	0	0	0	0	1(1)
BC六ヶ所村、三沢市	0	0	1	0	0	0	0	1(1)
C三沢市	0	1	0	0	0	0	0	1(1)
CD三沢市、おいらせ町	1	1	1	0	0	0	0	3(2)
Dおいらせ町	0	0	0	0	0	0	0	0(0)
DEおいらせ町、八戸市	0	0	0	1	0	0	0	1(1)
E八戸市	4	6	6	2	0	7	0	25(18)
ABCE東通村、六ヶ所村、三沢市、八戸市	0	0	3	0	0	0	0	3(3)
BCE六ヶ所村、三沢市、八戸市	0	1	0	0	0	0	0	1(1)
CE三沢市、八戸市	0	0	1	0	0	0	0	1(1)
下北地方、E八戸市	0	1	0	0	0	0	0	1(1)
F階上町	0	0	0	0	0	0	0	0(0)
未調査（被災地該当か不明）	0	0	0	0	0	0	20	20(20)
合計	19	21	28	8	0	20	31	127(97)

※表の見方 … 一論文に複数の研究分野がある場合、それぞれを 1 と数える。最右列の「計」欄中の括弧内は実際の論文数。

☆青森県の研究課題

① 南部地域の中心地である八戸と、九学会連合が 60 年代後半に調査を行っている下北地方の東通村のことばに関する研究はある程度あるが、それ以外はかなり手薄な状態である。

② 資料収集の仕方に問題がある可能性もあるが、最近の論文が特に少ない。60 年代後半の下北（東通村）、80 年代の南部（八戸市）において各分野の基礎的な項目はある程度記述されているが、その後の詳細な記述はほとんどなされないままである（2000 年代の論文は 3 本のみ）。

③ 以上から、体系的な記述調査が行われていない地域ではまず基礎的な項目からその調査を行う必要がある。また、記述がある程度ある地域でも、近年の言語実態を確認する必要はありそうである。

2.2　岩手県

被災地：A 洋野町　B 久慈市　C 野田村　D 普代村　E 田野畑村　F 岩泉町
G 宮古市　H 山田町　I 大槌町　J 釜石市　K 大船渡市　L 陸前高田市

☆岩手県の研究課題

① B 久慈市・G 宮古市・H 山田町・気仙郡(K 大船渡市・L 陸前高田市含む)

この地域は研究が多くなされている。各市町村ごとの研究の件数から見ても、B 久慈市が 54 件、G 宮古市が 76 件、H 山田町が 40 件、気仙郡が 57 件と多い。また内容としても、この 4 地域に関してはその市町村・郡を対象とした記述的研究が複数あり、1990 年代・2000 年代の文献も多い。特に気仙郡は気仙方言について書かれた詳しい書籍が何冊か存在する。

② D 普代村・E 田野畑村・F 岩泉町・I 大槌町

この地域は研究がほとんどなされていない。各市町村の研究件数を見ても、D 普代村が 24 件、E 田野畑村が 24 件、F 岩泉町が 35 件、I 大槌町が 20 件と少ない。特に普代村に関しては、普代村に焦点を当てた研究は管見の限りなかった。田野畑村・岩泉町・大槌町に関しては、それぞれに焦点を当てた文献はわずかにあるものの、いずれも 1990 年以前のものしかない。

③ A 洋野町・C 野田村・J 釜石市

この地域は各市町村の研究件数では、A 洋野町 42 件、C 野田村 36 件、J 釜石市 56 件と少なくはない。しかし、洋野町・野田村・釜石市それぞれ単独に焦点を当てた文献は少ない。特に野田村の方言に関する記述的な研究は管見の限りなかった。

④ 以上から、洋野町・野田村・普代村・田野畑村・岩泉町・大槌町・釜石市の調査を行う必要がある。野田村・大槌町は特に被害の大きかった地域であり、普代村に関しては人口の少ない地域でもあるため、この 2 地点の調査が急がれる。

《岩手県分野別研究件数》

	音声	文法	語彙	方言集	待遇表現	その他	未確認	計
全域	9	21	3	2	5	2	0	42(8)
三陸地方	0	0	0	0	0	0	4	4(4)
九戸郡	0	0	1	0	0	0	0	1(1)
下閉伊郡	1	1	0	0	0	0	0	2(1)
上閉伊郡	0	0	0	0	0	0	1	1(1)
気仙郡	8	14	4	0	2	0	8	36(14)
九戸郡、気仙郡	0	0	1	0	0	0	0	1(1)
全域、九戸郡、下閉伊郡、上閉伊郡	1	0	1	0	0	0	0	2(1)
A洋野町	3	4	0	0	0	0	1	8(3)
B久慈市	4	2	0	1	0	0	0	7(5)
AB洋野町	0	0	0	1	0	0	0	1(1)
E田野畑村	0	0	0	0	0	0	1	1(1)
F岩泉町	0	0	0	0	0	0	1	1(1)
G宮古市	10	5	0	1	2	2	3	23(11)
H山田町	1	0	0	1	1	0	3	6(6)
FH岩泉町、山田町	1	0	0	1	0	0	0	2(1)
AF洋野町（旧種市町）、岩泉町	3	0	0	0	0	0	0	3(1)
I大槌町	0	0	0	0	0	0	2	2(2)
J釜石市	1	6	0	1	1	0	1	10(2)
IJ大槌町、釜石市	0	0	1	0	0		0	1(1)
K大船渡市	10	1	1	0	0	4	0	16(7)
JK釜石市、大船渡市	1	1	2	0	0	0	0	4(1)
HIJKL山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市	2	4	1	0	1	0	0	8(1)
ABCDEFGHIJKL洋野町、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町、宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市	0	3	1	0	0	0	0	4(2)
ABCDEFG洋野町、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町、宮古市	12	4	1	0	0	0	0	17(3)
ABCDEGHI洋野町、久慈市、野田村、普代村、宮古市、山田町、大槌町	2	0	0	0	0	0	0	2(2)
ABCDGHKL洋野町、久慈市、野田村、普代村、宮古市、山田町、大船渡市、陸前高田市	0	0	0	0	1	0	0	1(1)
ABCHKL洋野町、久慈市、野田村、山田町、大船渡市、陸前高田市	0	0	1	0	0	0	0	1(1)
ABGJKL洋野町、久慈市、宮古市、釜石市、大船渡市、陸前高田市	0	0	1	0	0	0	0	1(1)
AFGJ洋野町、岩泉町、宮古市、釜石市	0	4	0	0	0	0	0	4(1)
BFGJK久慈市、岩泉町、宮古市、釜石市、大船渡市	1	0	0	0	0	0	0	1(1)
BKL久慈市、大船渡市、陸前高田市	1	0	0	0	0	0	0	1(1)
九戸郡、気仙郡、BGJK久慈市、宮古市、釜石市、大船渡市	0	4	0	0	0	2	0	6(1)
全域、BCFGJHIK久慈市、野田村、岩泉町、釜石市、宮古市、山田町、大槌町、大船渡市含む	0	1	1	0	0	1	0	3(1)
全域、BCKL久慈市、野田村、大船渡市、陸前高田市	2	4	1	1	0	0	0	8(1)
全域、九戸郡、気仙郡、GHJ宮古市、山田町、釜石市	2	6	2	1	1	2	0	14(1)
不明（南部とのみ記述あり）	0	0	1	0	0	1	0	2(1)
合計	75	85	24	10	14	14	25	247(93)

※表の見方 … 一論文に複数の研究分野がある場合、それぞれを１と数える。最右列の「計」欄中の括弧内は実際の論文数。

2.3　宮城県

被災地（市町村）：A 気仙沼市　B 南三陸町　C 石巻市　D 東松島町　E 松島町
F 塩釜市　G 七ヶ浜町　H 利府町　I 多賀城市
J 仙台市　K 名取市　L 岩沼町　M 亘理町　N 山元町

《宮城県分野別研究件数》

	音声	文法	語彙	方言集	言語行動	その他	未確認	計
宮城県全般	4	9	3	3	0	1	0	20(12)
宮城県北部	1	0	0	0	0	0	0	1(1)
宮城県南部	4	3	1	0	1	0	0	9(2)
A気仙沼市	0	0	0	2	0	0	0	2(2)
B南三陸町	2	0	0	0	0	0	0	2(2)
C女川町	0	0	3	0	0	0	0	3(3)
D石巻市	6	14	5	3	2	2	0	32(10)
E東松島町	0	0	0	0	0	0	0	0
BE　南三陸町、東松島町	1	2	1	0	1	0	0	5(5)
F松島町	0	0	0	0	0	0	0	0
G塩釜市	0	0	0	0	0	0	0	0
H七ヶ浜町	0	0	0	0	0	0	0	0
I利府町	0	0	0	0	0	0	0	0
J多賀城市	2	3	3	0	1	0	0	9(1)
K仙台市	25	18	14	22	11	9	0	99(68)
仙台市北部(1)	1	0	0	0	0	0	0	1(1)
仙台市南部(1)	1	0	0	0	0	0	0	1(1)
DK　石巻市、仙台市	0	0	0	0	0	0	0	0
CEK　女川町、東松島町、仙台市	4	0	0	0	0	0	0	4(4)
L名取市	1	0	1	0	0	0	0	2(1)
M岩沼町	0	0	0	1	0	0	0	1(1)
N亘理町	0	0	0	1	0	0	0	1(1)
O山元町(3)	14	0	0	0	2	0	0	16(3)
NO　亘理町、山元町	0	0	1	0	0	0	0	1(1)
ABDEFK　気仙沼市、南三陸町、石巻市、東松島町、松島町、仙台市	1	0	0	0	0	0	0	1(1)
ADFK　気仙沼市、石巻市、松島町、仙台市	1	0	0	0	0	0	0	1(1)
ABDFHJL　気仙沼市、南三陸町、石巻市、松島町、七ヶ浜町、多賀城市、名取市	4	3	0	0	0	0	0	7(7)
東北全域	1	0	0	0	0	0	0	3(2)
未調査（被災地該当か不明）	0	0	0	0	0	0	54	54(54)
合計	82	52	64	32	18	12	54	282(183)

※表の見方 … 一論文に複数の研究分野がある場合、それぞれを１と数える。最右列の「計」欄中の括弧内は実際の論文数。

☆宮城県の研究課題

① 宮城県の方言研究の文献は、地域的には仙台市・旧仙台市に偏っていると言える。しかし、仙台市においても、音声・文法・語彙以外の項目は少ない傾向が見られる。また、旧仙台市領の資料も語彙に偏っている。仙台市以外の地域の文献は、石巻市の音声・文法・語彙の文献が若干ある程度で、決して十分とは言えない。また、どの地域においても方言意識・言語行動・待遇意識・談話資料の文献の少なさが目立つ。

② 音声・語彙の記述的研究は相当充実しているが、その他の研究、特に共通語化に観点を置いた研究は少ないということが分かる。方言意識・言語行動・待遇表現・談話資料に関しては、記述的研究も不足している。

③ 今後の課題としては、現在ある記述的研究を踏まえ、被災地全域を地理的分布や世代差、共通語化の観点から実際に調査していくことが必要になるであろう。また、被災地と方言区画とを照らし合わせてみると、県北の内陸および石巻市付近（E 東松島町、F 松島町、I 利府町）、阿武隈川河口以南、白石市付近（N 亘理町、O 山元町）の文法・語彙に関しては、全体的に文献数が不足していると言える。被災地の中でも、特に県北の内陸および石巻市付近、阿武隈川河口以南、白石市付近の地域は、記述的な調査も必要であると考えられる。

2.4 福島県

被災地（市町村）：A 相馬市　B 南相馬市　C 田村市　D いわき市　O 伊達市

〔相馬郡〕E 新地町　F 飯舘村　P 川俣町

〔双葉郡〕G 広野町　H 楢葉町　I 川内村　J 富岡町　K 大熊町

L 双葉町　M 浪江町　N 葛尾村

《福島県分野別研究件数》

	音声	文法	語彙	方言集	言語行動	その他	未確認	計
福島県全域	12	16	4	3	4	3	1	42(9)
浜通全域	1	1	4	0	0	1	0	7(6)
AB相馬市、南相馬市（相馬地方）	3	0	1	1	1	4	0	10(8)
A相馬市	2	4	0	1	0	0	0	7(2)
B南相馬市	4	7	2	1	0	3	0	17(4)
BFLN南相馬市、飯舘村、双葉町、葛尾村	0	0	0	0	1	0	0	1(1)
ABDEGHIKLM相馬市、南相馬市、いわき市、新地町広野町、大熊町、双葉町、浪江町、富岡町、楢葉町	1	0	0	0	0	1	0	2(1)
ABDM相馬市、南相馬市、浪江町、いわき市	0	0	0	0	1	0	0	1(1)
ADM相馬市、いわき市、浪江町	0	1	0	0	0	0	0	1(1)
BDE南相馬市、いわき市、新地町	0	0	0	0	0	1	0	1(1)
C田村市	0	0	1	0	0	0	0	1(1)
浜通南部	0	0	1	0	0	1	0	2(2)
磐城地方、相馬地方	0	0	0	1	0	0	0	1(1)
磐城地方	0	0	1	4	0	0	0	5(5)
Dいわき市	2	5	2	1	4	1	0	15(7)
未調査（被災地該当か不明）	0	0	0	0	0	0	15	15(15)
合計	25	34	16	12	11	15	16	139(66)

※表の見方 … 一論文に複数の研究分野がある場合、それぞれを１と数える。最右列の「計」欄中の括弧内は実際の論文数。

☆福島県の研究課題

① 被災地となる浜通地域では方言集が多く作られているものの、説明がない、または少ないものが結構ある。記述的研究の文法がほかの分野に比べて若干少ない。また、音声の研究も相馬市周辺に限られている。特に、いわきは方言集が多く、他の分野の研究が少ない。

② 先行研究は主に相馬市・南相馬市周辺といわき市に固まっており、原発事故により福島第一原発から 30km 圏内の双葉郡及び飯舘村の研究は、他地域との地域差のみの研究に限定され、かなり少数となっている。特に双葉郡の記述的研究は見あたらなかった。

③ 相馬地方（相馬市、南相馬市）と磐城地方に関する文献は数があるが、その間の地域についてのものがない（あっても複数ある調査地点のひとつになっているだけ）。原発の避難区域として指定されている地域なので今後は調査が難しいと思われるが、記録の必要性は高い。

④ 記述的な研究をしている文献が比較的年代の古いものが多い。年代の新しいものは共通語化を扱ったものが多いが、網羅的な記述ではないので、近年の方言実態があまり把握されていない。被災地の中でも避難対象地域となっている土地であるので、調査研究が急がれる。

2.5 茨城県

被災地（市町村）：A 北茨城市　B 高萩市　C 日立市　D 東海村　E ひたちなか市
F 水戸市　G 大洗町　H 鉾田市　I 鹿嶋市　J 神栖市　K 潮来市

《茨城県分野別研究件数》

	音声	文法	語彙	方言集	言語行動	その他	未確認	計
茨城県全域	1	1	1	4	1	1	0	9(5)
利根川流域	0	0	0	1	0	0	0	1(1)
A北茨城市	0	1	0	1	0	0	0	2(2)
F水戸市	1	0	0	0	0	1	0	3(3)
G大洗町	1	0	0	0	0	0	0	1(1)
未調査（被災地該当か不明）	0	0	0	0	0	0	2	2(2)
合計	2	1	0	6	0	1	2	18(14)

※表の見方 … 一論文に複数の研究分野がある場合、それぞれを 1 と数える。最右列の「計」欄中の括弧内は実際の論文数。

☆茨城県の研究課題

① 茨城県の被災地は宮城県等と同様、広範囲にわたり、内陸でも大きく建物が損傷したなどの話があるが、市町村ごとの被害の程度が不明のため、とりあえず津波による被害を受けたと思われる沿岸部に限って研究内容をまとめることとした。

② 津波による被災地である沿岸部に限定した場合、内陸のつくば市などが除かれるため、かなり少ない数となっている。ただし、比較的 2000 年前後の比較的近年の研究がされている。

③ 沿岸部でもっとも福島県に近く、福島第一原発から 50 キロ圏内の北茨城市では近年に方言集と世代差の研究がある。方言集は未入手のため内容がわからない。

④ 県庁所在地である水戸市での被災地域は、水戸市全体から見ると沿岸の一部地区に限られる。その地区においては居住を制限するなどの措置がとられており、とりわけ浜言葉の消失が懸念されるが、水戸市だけの研究は意外と少ない。茨城県方言とした方言集などは、水戸市の方言を対象としている可能性が高いが、調査地域が詳しく記載されておらず、不明である。

⑤ 大洗町は町域の約半分が浸水し、大洗港も船が陸に乗り上げるなどの被害が出ている。しかし、方言についての文献は音声の１件のみに限られ、語彙などについては記載が見あたらなかった。

⑥ 千葉県との県境となる利根川流域でも液状化現象などによる大きな被害が出ている。この地域については茨城県の文献として挙げたが、やはり数が少ない。

2.6　千葉県

被災地（市町村）：Ａ銚子市　Ｂ旭市　Ｃ匝瑳市　Ｄ横芝光町　Ｅ山武市　Ｆ九十九里町
Ｇ白子市　Ｈ長生村　Ｉ一宮町　Ｊいすみ市　Ｋ富津市　Ｌ千葉市
（千葉県ホームページ内「東日本大震災による県内の被害状況図（千葉県防災危機管理監防災危機管理課調べ）」より津波被害地域を取り上げた）

《千葉県分野別研究件数》

	音声	文法	語彙	方言集	言語行動	その他	未確認	計
千葉県全域	4	9	13	17	0	2	0	45(28)
A銚子市	5	2	4	3	1	0	0	15(8)
B旭市	4	0	0	2	0	0	0	5(5)
C匝瑳市	1	0	1	0	1	0	0	3(1)
D横芝光町	0	0	0	0	0	0	0	0(0)
E山武市	4	2	1	0	1	0	0	9(6)
F九十九里町	2	1	6	1	1	0	0	11(8)
G白子町	2	2	3	1	2	2	0	12(5)
H長生村	4	0	0	9	0	0	1	13(13)
I一宮町	1	0	1	2	1	0	0	5(2)
Jいすみ市	2	0	4	0	1	0	0	7(4)
K富津市	0	0	2	2	1	0	0	5(6)
L千葉市	0	0	0	0	0	0	0	0
未調査（被災地該当か不明）	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	28	16	35	37	9	4	1	130(86)

☆千葉県の研究課題

① 千葉県は、液状化現象の被害のあった浦安市を含め、主に安房郡を除く東海岸部も地震の被害を多く受けているが、今回は津波の被害を受けた沿岸部のみを対象にした。千葉県ホームページ内の「東日本大震災による県内の被害状況図（千葉県防災危機管理監防災危機管理課調べ）」を手がかりにして、津波による被害のあった地域を対象として取り上げた。これらの地域に関する方言研究の概観としては、一般向けを対象とした方言集や方言語彙を取り扱った言語地図など、語彙に関する研究が多い。

〔千葉県ホームページ「東日本大震災による県内の被害状況図」〕

http://www.pref.chiba.lg.jp.cache.yimg.jp/kouhou/h23touhoku/index.html

② 共通語化が大幅に進んでいるとの見方から、近年の研究は非常に少ない。伝統的方言に関する研究はとくにその傾向が顕著である。1980年代あたりまでは千葉県全域または今回被災地対象地域として取り上げた銚子市・富津市などの沿岸部においても言語地図や語彙の意味・用法分析、さらに一般向けの方言集なども多く見られたが、90 年代以降は徐々に少なくなっている。こうした千葉県北東部の地域は、共通語化などの影響も相まって方言の危機的状況にあるともいえる。とくに独特の浜言葉といった漁業関連語彙も徐々に失われていく可能性もあるため、語彙調査もさらに必要であろう。

③ 今回は被災地対象地域を津波の被害のみに絞ったため、液状化といった地震による被害は含めていない。浦安市や木更津市などの東海岸部も液状化の大きな被害を受けている。また、震災から数カ月が経過した時点で、利根川流域を中心に避難を始めた人たちがいるようである。今後、避難の状況を見つつ、必要に応じて調査を行う必要がある。

2.7 複数県にわたる文献・資料

次に、複数県にまたがっており、それぞれの県の一覧には含まれていない調査研究を以下に示す。談話資料が多いため、「談話資料」と「その他の資料」（多くは音声に関する資料）に分けて記す。

ただし、これらは全体的に調査がまだ行き渡っていない。今後、網羅的に調査を行い、順次今回のリストを補っていきたい。また、考察も行き届いていないため、今後の課題としたい。

◇談話資料

① 日本放送協会編（1981）『全国方言資料』NHK 出版（CD-ROM 版 1999 年発行）

【被災地該当調査地点】 ※（ ）内は現在の市町村名

岩手県：九戸郡種市町中野（洋野町）、岩手県宮古市高浜

福島県：相馬郡石神村（南相馬市）

② 国立国語研究所（2002，2006）『全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成』国書刊行会（文化庁の「各地方言収集緊急調査」の一部）

【被災地該当調査地点】 ※（ ）内は現在の市町村名

宮城県：仙台市

茨城県：水戸市

千葉県：長生郡長生村（長生市）

※ その他、文化庁（1977～1985）「各地方言収集緊急調査」の調査として以下の地点の調査が行われている。

【被災地該当調査地点】　※（　）内は現在の市町村名

青森県：下北郡川内町（むつ市）、北上郡野辺地町、三戸郡五戸町

岩手県：久慈市、宮古市、大船渡市

宮城県：本吉郡歌津町（南三陸町）、亘理郡亘理町（亘理町）

福島県：いわき市

茨城県：高荻市、鹿嶋郡大野村（鹿嶋市）

千葉県：海上郡飯岡町（旭市）

③ 国立国語研究所（1975~1981）『国立国語研究所資料集 方言談話資料』秀英出版

【被災地該当調査地点】　※（　）内は現在の市町村名

宮城県：亘理郡亘理町荒浜（亘理町）

千葉県：館山市相浜

◇ その他の資料

① 大橋純一（2002）『東北方言音声の研究』おうふう p.461 より（調査内容：母音・子音・拍）

【被災地該当調査地点】　※（　）内は現在の市町村名

青森県：八戸市

岩手県：九戸郡種市町（洋野町）、九戸郡大野村（洋野町）、久慈市、九戸郡野田村、宮古市、下閉伊郡岩泉町、下閉伊郡普代村、下閉伊郡田野畑村、下閉伊郡田老町（宮古市）、下閉伊郡川井村（宮古市）、上閉伊郡大槌町

宮城県：仙台市、亘理郡山元町（山元町）、本吉郡本吉町（気仙沼市）

福島県：いわき市、双葉郡楢葉町

② 大橋勝男（2008）『太平洋沿岸方言音声の研究』おうふう

【被災地該当調査地点】　※（　）内は現在の市町村名

岩手県：下閉伊郡川井村河内（宮古市）

千葉県：市原市東国吉